

8月
2021年

155号

地域共創・未来共創の大学へ

報

沖繩大学
OKINAWA UNIVERSITY

発行

沖繩大学経営企画室
〒902-8521 沖繩県那覇市宇国場555
☎ 098(832) 2910
<http://www.okinawa-u.ac.jp>

祝 沖大硬式野球部 全国大会出場!!



学長室
から 04

...「いつか」

沖繩大学の硬式野球部が、九州地区大学野球選手権南部九州ブロック大会で優勝し、第70回全日本大学野球選手権記念大会に出場しました。

「全国大会に出場する」これが悲願ですというのを、数か月前、大城貴之監督の口から聞いたときは、「いつ」実現するかもわからない話のように、僕には聞こえてしまいました。その「いつ」が、気づいたら現実のものとなっていて、試合当日、大学本館のフロアに設置された画面には、東京ドームで行われていた試合が中継されていました。まるで、プロ野球の試合を見ているみたいだなと、なんだか遠い世界の映像を見ているような不思議な感覚で、その画面を見ました。

「いつ」というのは、来るものなのだなあということを、あらためて思います。「いつか」ということを、僕はいろいろなときに頭に思い浮かべたりします。でも、同時に「いつか」はずっとおとずれないんじゃないかな、なんて言う風にも思っているのではないのでしょうか。いえ、そうではなくて、「おとずれなくてもいいかな」と思っている「いつか」と、本当に引き寄せたいと思っている「いつか」があるということかもしれません。野球部の「いつか」は、自分たちでひきよせた「いつか」だったというわけです。監督も選手たちも、全国大会出場という目標を達成し、もうきっと、次の「いつか」を想定し、そのために日々、何事かに取り組み始めたはずです。今の僕にとっての「いつか」は何でしょう。そのために今、何をしています。そんなことを考えています。

九州地区大学野球選手権南部九州ブロック大会において、見事優勝を果たした本学硬式野球部。悲願の全国大会初出場を決めました。

6月7日に東京ドームで行われた名城大学との試合は、エース仲地が力投するも、初回で相手チームに許した1点が遠く、0対1で惜敗しました。

盗塁からの1失点で敗れはしたものの、仲地礼亜投手の安定したピッチングや笑顔を絶やさず好プレーを見せてくれた野球部の闘いぶり、来年に繋がる見応えある試合となりました。今号では島袋主将と大城監督のコメントを紹介します。



沖縄大学硬式野球部 監督 大城 貴之

野球部にとっても、私にとっても全国大会出場は悲願でした。1994年監督就任28年目にしてようやくその目標を果たすことができました。「沖大野球部を全国の強豪と同じ舞台に立たせたい」、一貫してその想いを抱いてきました。その想いがこの28年間を支えてくれました。野球部卒業生、一人一人の歴史がこの初出場を叶えてくれました。何にも代え難い初出場でした。

今回のチームは、攻撃力の派手さこそありませんが、投手の仲地を柱に守り勝つ野球で勝ち残ってきました。ロースコアの試合も多く、試合をご覧になって下さった方はハラハラされたかと思いますが、まさに、私たちが目指す粘りの野球、負けず嫌いの野球ができるチームでした。

このチームが全国大会に出場できたのは、キャプテン島袋のリーダーシップにあります。そして4年生10名の結束力にあります。キャプテン島袋を先頭に、練習や試合だけではなく、様々な課題解決も含めて毎日が真剣そのものでした。私は、そんな選手の自主性を認め、自発性を促し、目標への舵取りを行うだけでした。

九州地区大会で優勝が決まった瞬間は、不思議と涙はありませんでした。でも、4年生の嬉し涙を見た瞬間、感動して涙があふれてきました。また、自粛、自粛の中で、「胴上げは自粛しよう」と言っただけなのに、逆に選手から「やってもいいですか?」とあり、さすがに歓喜まで自粛することはできませんでした。

九州地区大会で優勝が決まった瞬間は、不思議と涙はありませんでした。でも、4年生の嬉し涙を見た瞬間、感動して涙があふれてきました。また、自粛、自粛の中で、「胴上げは自粛しよう」と言っただけなのに、逆に選手から「やってもいいですか?」とあり、さすがに歓喜まで自粛することはできませんでした。



この度の、全国大会出場に際しましては、多くの方々からご支援、ご寄附を頂きました。また、テレビ観戦を通じて、多くのご声援をいただき、東京ドームには、多くの卒業生の方が観戦にお見えになっていました。誠に感謝の念に絶えません。ご支援・ご協力いただいた全ての皆様にお礼申し上げます。試合は、残念ながら惜敗いたしました。新しい目標にむかってまた励んでまいりますので今後ともご支援の程よろしくお願い申し上げます。

沖縄大学硬式野球部 主将 経法商学科 島袋 瑠平



「全国大会出場」を最大目標に掲げて練習に励んできました。念願だった初出場という歴史をつくることができ、とても嬉しく思います。全国での県勢初勝利とはなりませんでしたが、これからの目標にして励んでいきたいと思います。

私は、この大会をもってキャプテンの役割は終えますが、これまでを振り返ると、多くの苦労の連続でした。チームを強くする、絶対全国大会に行くという思いで常に先頭に立ち、時には不満も批判も受け、仲間とはいえ葛藤との戦いでした。孤独を感じた時もありました。どちらかといえばうまくいかないことの方が多かったように感じますが、最後まで一貫して諦めず本気で発言し、本気で行動してきました。名城大学に負けた日、宿舎でのミーティングで、「お前がキャプテンじゃなかったら全国には行けなかった」、「キャプテンでチームは変わる」など、同級生をはじめ多くのメンバーから声をかけてもらいました。最後に感謝の言葉をいただくことができ、キャプテンとしてやっ



と認めてもらえたような気持ちにもなりました。個人としてもチームとしても大きく成長し、頑張ってきて本当に良かったです。

コロナ禍において大会を開催していただき、そして遠征を許可していただき心からお礼を申し上げます。県予選から全国大会まで本当に多くの応援やサポートをいただきました。だからこそ、目標達成もできたと思います。私達選手の努力だけではできなかったと思います。本当に多くの方々に応援され、支えられているということがこの大会を通してあらためて感じました。個人的にも、両親、監督、コーチ、トレーナーなど色々な方々に支えられました。本当にありがとうございました。

これからも新しい目標にむかって精進していきますので、沖縄大学硬式野球部のことをよろしくお願いいたします。



◆News&Topics◆

4/2 入学式を挙

4月2日、2021年度入学式を挙

行しました。昨年度は新型コロナウイルスの感染拡大の影響で中止となった入学式、今年度は学科ごとに会場を分散してメイン会場の式典の様子をオンライン配信し、597人(編入学、大学院含む)の新入生を沖縄大学に迎えました。

式典後は、各学科の教員紹介等オリエンテーションも行われ、新入生はこれからの大学生活への期待を大きく膨らませている様子が伺えました。



社会福祉士国家資格と精神保健福祉士国家資格の同時取得を目指して4年間勉強をがんばりたいです。

小学校のときから先生になることを志していたので、やっとスタートに立てたと感じています。自分の目指す教師像に向けて4年間頑張っていきたいです。盛口ゼミに入るのが楽しみです。

沖縄で唯一の管理栄養士養成学科ということで、沖縄大学を目指して頑張ってきました。新しい友達や仲間と栄養学の専門知識を深く学んでいきたいと思っています。



福祉文化学科入学生
平良 和花さん
(南風原高校出身)



こども文化学科入学生
兼城 誉さん
(美里高校出身)



管理栄養学科入学生
本村 優利花さん
(前原高校出身)

2021年度入学生数

経法商学部	経法商学科	新入生	239人	
		2・3年次編入	9人	
人文学部	国際コミュニケーション学科	新入生	77人	
		2・3年次編入	6人	
	福祉文化学科社会福祉専攻	新入生	63人	
		2・3年次編入	4人	
	福祉文化学科健康スポーツ福祉専攻	新入生	56人	
2・3年次編入		2人		
健康栄養学部 大学院	こども文化学科	新入生	57人	
		管理栄養学科	2・3年次編入	1人
			新入生	81人
		新入生	2人	
合計			597人	

4月から7月の学内の情報もお届けします。

4/9 2021年度講義スタート

4月9日から2021年度の授業が開始しました!去年はコロナウイルスのため遠隔授業からのスタートだったり、入学式は中止になったりと、今まで経験してこなかったことを経験した1年だったと思います。

今年は入学式も行われ、授業も対面でのスタートとなりました。まだまだ予断を許さない状況ですが、対面授業とリモート授業、どちらにも柔軟に取り組んでいきたいです。

2021年度広報マンとして5人の学生さんが広報誌に協力してくれることになりました。学生広報マンの記事、お楽しみください!



こども文化学科3年次
川端 彩花さん

◆News&Topics◆

4/13 福祉文化学科健康スポーツ福祉専攻2年次(2020年度入学生)の1年遅れの入学式

昨年は新型コロナウイルスの感染拡大により、開催できなかった入学式。初めての大学生活を手探りで頑張ってきた学生たちに新たな区切りをつけ、再スタートをきってもらえたらと専攻の先生方が企画した、1年遅れの入学式が同窓会館で開催されました。

講義等のため参加できない先生からは音声メッセージも寄せられ、2年生45人と編入学生1人の入学式が挙行されました。「コロナ世代と悲観的にならず、この状況でも勉学に励んだことを胸を張って卒業を迎えられるように大学生活を楽しんでほしい」と先生方からは、全力で見守り応援していきたいとのエールが送られ、心あたたまる式となりました。



5/17 新入生歓迎会&サークルの日

コロナ禍の影響により例年とは違った方法で新入生歓迎会&サークルの日 YouTube 配信イベントが行われました。内容としては、主にサークル紹介です。沢山のサークルの紹介を通じて、課外活動への取り組みが大学生活の充実にもつながることを伝えようと、スライドショーや紹介文を各サークルに依頼し、zoomによるサークルブースでの説明会を行いました。

私は、インフォメーション・オリエンテーションの司会として参加し、YouTube配信者として新歓に取り組みました。司会を担当したことで、たくさんのサークルの活動を知る機会となり、私自身すごく楽しく進行を務めることができました。

こども文化学科 3年次
末吉 唯さん



第6回 「チャレンジスポーツ教室」 おきなわedu×沖縄大学

定期的には様々なスポーツ団体を沖縄大学にお招きし、体験・交流の場を作る「チャレンジスポーツ教室」。

第6回教室では、放課後等デイサービス「おきなわedu」の子供たちを招いて、学生と運動あそびプログラムで交流しました。



4/17 土曜教養講座 第575回『コロナ禍だからこそつながろう! 子どもと遊び』

地域研究所ではオンラインで土曜教養講座を定期的に開催しています。第575回講座では『コロナ禍だからこそつながろう!子どもと遊び』と題して子どもと直接関わる現場からの様々な視点を交えた発表や意見交換を行いました。6月12日には第576回土曜教養講座「琉球列島の自然を考える 世界自然遺産登録に向けた現状と課題」と題したシンポジウムを開催。琉球列島の特殊な環境のことや生物多様性に始まり、日本の社会のあり方について国立環境研究所 生態リスク評価・対策研究室室長の五箇公一さんや本学客員教授・世界自然遺産候補地科学委員会委員の山田文雄さん、盛口満学長が登壇しました。

また7月3日には第577回土曜教養講座『若年妊婦をどう支えていくのか』をオンライン開催しました。



ゼミナール活動紹介

コロナ禍でもがんばっています！

コロナ禍、多くの講義はリモート授業を余儀なくされましたが、感染状況を判断しながら少人数ゼミは対面授業を行っています。ゼミ活動について紹介してもらいます！

前田ゼミ

前田ゼミは前田舟子先生をはじめ、4年ゼミもその他の学年もとても個性的で元気があり、活発なメンバーが集まったゼミです。普段は歴史をテーマに、様々な事柄の歴史を辿って研究を進めています。主な内容は、琉球王国時代の家譜調査などです。堅苦しく見えるかもしれませんが、自分の研究テーマはマクドナルドの歴史についてです。自分が好きなことを歴史に繋げていけるのでとても興味が湧き、研究が進みます。

今年度は課外活動として、史跡巡りを行っています。実際に首里城や浦添城址、識名園などに行き、琉球の偉人について学んでいます。

識名園散策 2年ゼミ



3年ゼミ：大学近くの苗字について調査、発表を行いました



琉球王国初期の王陵『浦添ようどれ』散策 4年ゼミ



経法商学科 4年次
浦崎大智さん



末吉宮散策 4年ゼミ

玉木ゼミ

福祉文化学科玉木千賀子先生のゼミ生が毎年取り組んでいる地域のお年寄りの人生を一冊の本にする『聞き書き本』活動、2020年度の本が完成しました。昨年度は新型コロナウイルスの影響もあり、例年より半年遅れとなる12月から活動を再開し、県内の感染者状況等を見ながらインタビューを行い、ようやく6月24日に完成することができました。玉木ゼミの4年次11名が取り組み、大学近隣に住むお年寄り5名にインタビューを行いまとめました。

話し手の山城さんにお届けして、少しでも喜んでもらえるとうれしいです。私たちの世代にはわからない、戦争時代の経験や、食事、教育や地名など、お話を聞く中で多くの学びにも繋がりました。聞き書きを通して貴重な体験をさせて頂きました。



福祉文化学科 4年次
伊禮鈴乃さん



池間ゼミ

こども文化学科池間生子先生のゼミでは、前半は遺産群巡りをしました。小学校の教員を目指すうえで沖縄の世界遺産についてもきちんと理解しようと取り組みました。県の緊急事態宣言の影響でしばらくはリモート授業となり、フィールドワークは中止になりましたが、後半のゼミでは特別支援について各自で調査し発表する予定です。

こども文化学科 3年次
長木涼花さん



沖大の魅力に迫る！ 沖大散策 vol.6

『知っていますか?!』

 『^{まだまみち}歴史ある道『真珠道』が
沖大生がよく通るあそこだということを!』


沖縄大学にある貴重なモノやアート作品を紹介する企画『沖大散策』、今号は学内を少しだけ飛び出してご紹介します。今回は経法商学科4年次の新田和馬さんに協力してもらいました。新田さんは琉球家譜や現在は泊村について調査研究をすすめています。そんな新田さんが最近気になっているものが琉球古道を代表する道の一つ、真珠道です。首里城から続くこの道、代表的な場所は金城町の石畳ですが、そこから繁多川、識名を通り、本学アネックス共創館前へ続き、国場、真玉橋、そして那覇港までつながっていたものです。

今回は新田さんをナビゲーターに真珠道について歴史散策へ誘います。



Q なぜ真珠道について興味をもったのですか

^{まだまみち}真珠道に興味を持ったのは、沖大周辺の史跡を調べようとしたことがきっかけでした。沖大は那覇市に位置していることから周辺に多くの史跡があり、琉球史を学ぶにあたって最高の場所にあります。沖大の学生として、沖大周辺の史跡などを知らないことはあまりにももったいないと思ったことが始まりでした。

ある日、グーグルマップを用いて沖大周辺の史跡の位置を調べていたところ、偶然「ナンチャー坂（おこげ坂）」という真珠道の道中にある坂の存在を知りました。それをきっかけに、アネックス共創館前の道が首里城まで繋がる真珠道の一部だったことを知り、真珠道に興味を持ちました。



▲尚徳王御陵跡の石碑



▲真珠道の道筋と沿道の文化財分布（上間～国場）※

Q 真珠道について

真珠道とは、第二尚氏王統第3代国王である尚真王の時代に整備された軍用道路のことです。この道が整備された詳しい年代は定かではありませんが、守礼門の近くにある「真珠湊碑文」が1522年に建立されたことから、その頃に首里城から那覇港南岸の垣花まで整備されたと考えられています。また、那覇港を守るために1554年に屋良座森グスクが築城された際には、垣花から屋良座森グスクまで延長されました。

真珠道の道筋は、「真珠湊碑文」のある園比屋武御嶽石門前の広場を起点に、金城町石畳道や識名坂を通り、ナンチャー坂や真玉橋、豊見城城下の北東側を経由し、最後は那覇港にある屋良座森城に至ります。その長さは、全長およそ10キロにも及ぶ大規模なものでした。

この道が整備された背景には、交通の利便性を高めるためだけでなく、当時頻繁に出没していた「倭寇」と呼ばれる海賊から那覇港周辺を守るという目的がありました。有事の際には、首里の軍隊と南風原・島添大里・知念・佐敷の軍勢が合流して真玉橋を渡り、下島尻（現在の八重瀬町・南風原町・糸満市・豊見城市）とともに那覇港南岸の垣花に集合し、敵に備えたことが碑文に記されています。真珠道は、「外敵の侵入」という一刻を争う事態に対応するために整備されたのです。当時、那覇港内には海外との貿易品などを収めた「御物城」や、中国への貢物である硫黄を収めた「硫黄グスク」などがあり、倭寇から那覇港を守る必要がありました。実際に、屋良座森グスクが築城された2年後の1556年には、倭寇が襲来してきており、王府は彼らを撃退しています。首里の軍隊がアネックス共創館前の道を駆け降りたことを想像すると、かなりワクワクさせられますね。

このように、真珠道はかなり長い歴史を持つ道でしたが、沖縄戦や開発などによってほとんど破壊されてしまいました。唯一真珠道らしさを感じることができる道は金城町石畳道のみですが、かつて真珠道だった道路の近くには、今でも多くの史跡や拝所などが存在しています。沖大周辺にも、第一尚氏王統最後の王である尚徳王の墓跡「尚徳王御陵墓跡」や、名橋とうたわれた真玉橋の遺構「真玉橋遺構」、国場と豊見城市が一望できる「ナンチャー坂」などがあります。どれも沖大から徒歩で行くことができるので、足を運んでみてはいかがでしょうか。真珠道を通った当時の人と同じ気持ちを感じられるかもしれません。（※参考文献：沖縄県立埋蔵文化財センター「真珠道跡」2008年。）



(守礼門を出発し、金城町石畳道へ)



Q 新田さんが琉球の歴史に感じる魅力について

琉球の歴史を学ぶ魅力は、高校で学習した日本史や世界史の知識と、琉球史の知識が結びつくことだと思います。例えば、今回紹介した真珠道が整備された理由は、倭寇から那覇港を守るためですが、その倭寇が活発化した理由は、当時東アジアの覇者であった「明」の政策が関係しています。16世紀に国際貿易が盛んになると、明の海禁（民間の貿易を禁止し、朝貢・冊封関係のみにする）という政策を破って密貿易や海賊行為をするようになった者が倭寇なのです。彼らの活動が頂点に達したのは1550年代であり、真珠道が屋良座森グスクまで延長された1554年と重なります。琉球の国内政策には、国際貿易の活発化や明の政策が間接的に影響していたのです。

このように、高校で学習する「日本史・世界史」と、「琉球史」の両方を知ることによって、世界の中で琉球がどのような立場にあり、どのような影響を受けてきたのかということがわかります。沖縄と世界の両方を知り比較できてこそ、沖縄が世界の中でどうあるべきなのかという大きな問いに挑戦していくことができると思います。そのために必要なのが琉球史であり、これこそが琉球史の魅力ではないかと感じています。

(参考文献：帝国書院「新詳世界史B」2014年119-123頁。)



▲金城川



▲真玉橋



3人でよく沖縄の歴史について語り合います！

左から 新田和馬さん、我喜屋貴哉さん、金城陸佳さん
(経法商学科4年次)



まず、主なたんぱく源には肉・魚・卵・大豆製品・乳製品があり、米飯にも100gで約25gのたんぱく質が含まれています。これら食材を組み合わせた例が図1です。次に、このたんぱく源を毎食、片手のひらサイズで1〜2品とすることが理想です。たんぱく質は多くとった分だけ筋肉になると考える方もいますが、一回の吸収量には限界があり、吸収できない分は分解されて尿から排泄されたり、余剰分が体脂肪として蓄積されたりします。そのため、食事や補食でこまめにとることがおすすめです。そして、たんぱく質は主食（糖質）と合わせてとることが大切です。エネルギー源になる糖質が不足すると、体は筋肉を分解して



図1. 主なたんぱく源

ます。フレイルの原因は様々ですが、予防策の一つとして筋肉量の維持は重要です。この筋肉量の維持に欠かせないたんぱく質ですが、食事摂取基準では1日あたり成人男性65g、成人女性50〜55gの摂取が推奨されています。もし、主治医や管理栄養士から食事指導を受けている場合は、その指示に従います。では、普段どれくらいたんぱく質がとれているかイメージできるでしょうか。今回は、たんぱく質のとり方についてお話ししたいと思います。

日本人の食事摂取基準2020年版(※1)では、高齢者のフレイル(※2)予防が重点課題の一つとされています。最近ではプロテインパウダーなど、手軽にたんぱく質をとれる商品が多数ありますが、基本は食事からということをお忘れず、健康的な体づくりに役立てていただければと思います。

※1 国民の健康の保持・増進および生活習慣病の発症予防・重症化予防のために1日にどれくらいエネルギーや栄養素を摂取したらよいかを性別・年齢階層別で示したものの

※2 加齢により心身ともに衰え、健康障害に陥りやすい状態



健康栄養学部 管理栄養学科助手 玉城 あさ香

健康な体づくりのために必要なたんぱく質のとり方とは

長寿県復活を目指して⑤

2020年度決算について

※千円未満四捨五入

資金収支計算書

収入の部 (単位 千円)			
科目	予算	決算	差異
学生生徒等納付金収入	1,772,000	1,853,568	△ 81,568
手数料収入	29,207	29,831	△ 624
寄付金収入	33,603	33,403	200
補助金収入	595,000	500,832	94,169
資産売却収入	85,000	191	84,809
付随事業・収益事業収入	43,007	40,523	2,484
受取利息・配当金収入	3,355	2,689	666
雑収入	68,226	75,262	△ 7,036
借入金等収入	0	0	0
前受金収入	950,947	939,497	11,450
その他の収入	112,415	17,359	95,056
資金収入調整勘定	△ 1,033,378	△ 1,032,861	△ 517
前年度繰越支払資金	2,513,432	2,513,431	
収入の部合計	5,172,814	4,973,725	199,089

支出の部 (単位 千円)			
科目	予算	決算	差異
人件費支出	1,403,984	1,387,658	16,326
教育研究経費支出	1,010,746	896,164	114,582
管理経費支出	109,874	84,097	25,777
借入金等利息支出	10,309	10,605	△ 296
借入金等返済支出	52,850	52,850	0
施設関係支出	397,500	58,032	339,468
設備関係支出	127,062	96,460	30,602
資産運用支出	31,000	34,479	△ 3,478
その他の支出	67,745	76,452	△ 8,707
予備費	30,778	-	30,778
資金支出調整勘定	△ 132,086	△ 85,693	△ 46,393
翌年度繰越支払資金	2,063,052	2,362,621	△ 299,569
支出の部合計	5,172,814	4,973,725	199,089

貸借対照表

資産の部 (単位 千円)			
科目	本年度末	前年度末	増減
固定資産	5,820,425	5,860,105	△ 39,680
有形固定資産	5,197,054	5,294,864	△ 97,810
特定資産	524,955	495,966	28,989
その他の固定資産	98,415	69,274	29,141
流動資産	2,429,560	2,528,231	△ 98,672
資産合計	8,249,984	8,388,336	△ 138,352

負債の部・純資産の部 (単位 千円)			
科目	本年度末	前年度末	増減
固定負債	1,209,454	1,271,996	△ 62,542
流動負債	1,105,509	1,115,439	△ 9,930
負債合計	2,314,963	2,387,436	△ 72,473
基本金	7,393,831	7,217,283	176,548
繰越収支差額	△ 1,458,809	△ 1,216,382	△ 242,427
純資産合計	5,935,022	6,000,901	△ 65,879
負債及び純資産の部合計	8,249,984	8,388,336	△ 138,352

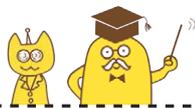
事業活動収支計算書

【教育活動収支】 (単位 千円)			
事業活動収入の部			
科目	予算	決算	差異
学生生徒等納付金	1,772,000	1,853,568	△ 81,568
手数料	29,207	29,831	△ 624
寄付金	33,603	33,403	200
経常費等補助金	595,000	500,832	94,169
付随事業収入	43,007	40,523	2,484
雑収入	68,226	75,262	△ 7,036
教育活動収入計	2,541,043	2,533,419	7,624
事業活動支出の部			
人件費	1,353,366	1,385,498	△ 32,132
教育研究経費	1,232,045	1,107,700	124,345
管理経費	114,572	93,803	20,769
教育活動支出計	2,699,983	2,587,001	112,982
教育活動収支差額	△ 158,940	△ 53,583	△ 105,357

【教育活動外収支】 (単位 千円)			
事業活動収入の部			
科目	予算	決算	差異
受取利息・配当金	3,355	2,689	666
教育活動外収入計	3,355	2,689	666
事業活動支出の部			
借入金等利息	10,309	10,604	△ 296
教育活動外支出計	10,309	10,604	△ 296
教育活動外収支差額	△ 6,954	△ 7,916	962

【特別収支】 (単位 千円)			
事業活動収入の部			
科目	予算	決算	差異
資産売却差額	0	3	△ 3
その他の特別収入	0	4,584	△ 4,584
特別収入計	0	4,587	△ 4,587
事業活動支出の部			
資産処分差額	47,364	8,968	38,396
特別支出計	47,364	8,968	38,396
特別収支差額	△ 47,364	△ 4,380	△ 42,984

	(126,701)	33,298	33,298
(予備費)			
基本金組入前当年度収支差額	△ 246,556	△ 65,879	△ 180,677
基本金組入額合計	△ 206,819	△ 176,548	△ 30,271
当年度収支差額	△ 453,375	△ 242,427	△ 210,948
前年度繰越収支差額	△ 1,216,383	△ 1,216,382	△ 1
翌年度繰越収支差額	△ 1,669,758	△ 1,458,809	△ 210,949
(予算)	(決算)	(差異)	
事業活動収入計	2,544,398	2,540,695	3,703
事業活動支出計	2,790,954	2,606,574	184,380



2021年度予算について

資金収支予算書

収入の部 (単位 千円)			
科目	本年度予算	前年度予算	増・減
学生生徒等納付金収入	1,972,000	1,772,000	200,000
手数料収入	35,315	29,207	6,108
寄付金収入	33,600	33,603	△ 3
補助金収入	573,507	595,000	△ 21,493
資産売却収入	85,000	85,000	0
付随事業・収益事業収入	38,829	43,007	△ 4,178
受取利息・配当金収入	1,727	3,355	△ 1,628
雑収入	37,471	68,226	△ 30,755
借入金等収入	0	0	0
前受金収入	841,051	950,947	△ 109,896
その他の収入	59,058	112,415	△ 53,357
資金収入調整勘定	△ 974,433	△ 1,033,378	58,945
前年度繰越支払資金	2,063,052	2,513,432	△ 450,380
収入の部合計	4,766,177	5,172,814	△ 406,637

支出の部 (単位 千円)			
科目	本年度予算	前年度予算	増・減
人件費支出	1,362,236	1,403,984	△ 41,748
教育研究経費支出	910,616	885,957	24,659
管理経費支出	102,926	107,961	△ 5,035
借入金等利息支出	9,495	10,309	△ 814
借入金等返済支出	71,600	52,850	18,750
施設関係支出	145,500	397,500	△ 252,000
設備関係支出	128,576	124,542	4,034
資産運用支出	31,000	31,000	0
その他の支出	60,736	67,745	△ 7,009
予備費	30,000	160,000	△ 130,000
資金支出調整勘定	△ 111,523	△ 132,086	20,563
翌年度繰越支払資金	2,025,015	2,063,052	△ 38,037
支出の部合計	4,766,177	5,172,814	△ 406,637

事業活動収支予算書

事業活動収支予算書 (単位 千円)				
教育活動収支	科目	本年度予算	前年度予算	増・減
	手数料	35,315	29,207	6,108
	寄付金	33,600	33,603	△ 3
	経常費等補助金	573,507	595,000	△ 21,493
	付随事業収入	38,829	43,007	△ 4,178
	雑収入	37,471	68,226	△ 30,755
	教育活動収入計	2,690,722	2,541,043	149,679
事業活動支出の部	人件費	1,369,737	1,353,366	16,371
	教育研究経費	1,118,068	1,107,256	10,812
	管理経費	107,458	112,659	△ 5,201
	教育活動支出計	2,595,263	2,573,281	21,982
	教育活動収支差額	95,459	△ 32,238	127,697
教育活動外収支	科目	本年度予算	前年度予算	増・減
	その他の教育活動外収入	0	0	0
	教育活動外収入計	1,727	3,355	△ 1,628
事業活動支出の部	借入金等利息	9,495	10,309	△ 814
	その他の教育活動外支出	0	0	0
	教育活動外支出計	9,495	10,309	△ 814
	教育活動外収支差額	△ 7,768	△ 6,954	△ 814
	經常収支差額	87,691	△ 39,192	126,883
特別収支	科目	本年度予算	前年度予算	増・減
	特別収入計	0	0	0
事業活動支出の部	資産処分差額	47,364	47,364	0
	特別支出計	47,364	47,364	0
	特別収支差額	△ 47,364	△ 47,364	0
(予備費)		30,000	160,000	△ 130,000
基本金組入前当年度収支差額		10,327	△ 246,556	256,883
基本金組入額合計		△ 67,936	△ 206,819	138,883
当年度収支差額		△ 57,609	△ 453,375	395,766
前年度繰越収支差額		△ 1,669,758	△ 1,216,383	△ 453,375
翌年度繰越収支差額		△ 1,727,367	△ 1,669,758	△ 57,609
(参考)				
事業活動収入計		2,692,449	2,544,398	148,051
事業活動支出計		2,682,122	2,790,954	△ 108,832

経常的な収支バランス

臨時的な収支バランス

教育事業での収支

教育事業外の収支

FD 見聞録⑤ (不定期連載)

自律的な教職課程の質保証に向けて

令和4年4月から複数の教職課程を有する大学は全学的に教職課程を実施する組織体制の整備が義務化され、教職課程を継続的に改善していくための自己点検・評価を行うことが求められることとなりました。この教職課程の自己点検・評価は、実施すること自体が目的ではなく、最終的に教職課程の改善につなげていくことが目指されており、教職課程の改善に向けたアクションプランの策定やFD・SDの実施など、各大学が主体的な取り組みを推進し、教職課程の充実・改善に結び付けていくための方策を検討することで具体化を図ることが重要になります。¹⁾

今回は、教職課程の自己点検・評価の実施に向けて教職課程の質保証や私が行っている教職課程の質保証に関する調査について紹介したいと思います。

教職課程の質保証

日本の教職課程の質保証は開設時における課程認定と不定期に行われる教職課程実地視察(外部質保証)が主となり、課程認定を受けた後に大学が自律的に教職課程の質の維持、向上にむけた取り組み(内部質保証)が十分に図られていないことが指摘されています。²⁾ また、本学のような私立大学を中心に教職課程の認定に「通る」ことが最大の関心事になっており³⁾、大学としての自律性や主体性が担保されないまま教職課程が運営されていることが課題にもなっています。このような課題を解決するために、各大学が教職課程に関するPDCAサイクルを適切に機能させ、教職課程における自己点検・評価の実施を自律的かつ主体的に行うことが目指されています。

教職課程の質保証に関する調査

日本における教職課程の自己点検・評価に関しては、東京学芸大学が行った「教員養成教育の評価等に関する調査研究」が先駆けと言えます。私は、同プロジェクトに評価員として関わり、教職課程の質保証の重要性を深く認知してきました。そこで、私は、同プロジェクトで使用した「教員養成教育認定評価ハンドブック」に基づき質問紙を作成し、本学の教職課程で学んだ学生が教職課程に対してどのような認識を持っているのかを明らかにすることを目的とした調査を行っています。まだ調査中のため詳細を示すこ

福祉文化学科健康スポーツ福祉専攻
准教授

嘉数 健悟



とはできませんが、概要を紹介したいと思います。

例えば、本学の教員養成に対する理念や育てたい「教員像」や「学校現場への理解と教育実習の充実」、「体験の省察・構造化の充実に関する工夫」などについては、卒業生の80%以上がその取り組みや内容について理解しています。一方で、「教職志望学生への適切な支援と指導」や「教職課程への学生の導入に関する工夫」、「履修指導を支える組織体制やシステムの充実について」は、十分でないと感じている卒業生が30%程度います。これらの結果は、卒業生が教職課程のカリキュラムに満足しているものの、その指導体制やあり方に改善の余地があると認識していることを示しています。

おわりに

急速な社会の変化に伴い、複雑化する社会において、初等中等教育や大学教育では「何を教えたか」から「何を学び、身に付けることができたのか」への学びの転換が求められています。それは、大学における教員養成も例外ではなく、教師を目指す学生が「何を学び、身に付けることができたのか」に着目することで、学生が自ら学んで身に付けたことを把握することにつながります。今後は、エビデンスに基づく体系的な教職課程のカリキュラム開発や教職課程の質保証に向けた組織的な取り組みをより充実していくことが重要になってくると考えられます。

<引用参考文献>

紙幅の関係上、最低限の情報を記載しています。

- 1) 文部科学省(2021) 課程の自己点検・評価及び全学的に教職課程を実施する組織に関するガイドライン(案)
- 2) 文部科学省(2015) 中央教育審議会答申「これからの学校教育を担う教員の資質能力の向上について～学び合い、高め合う教員育成コミュニティの構築に向けて～」
- 3) 田子健(2002) 開放制教員養成の原則と戦後の教員養成改革. 日本教師教育学会編. 教師をめざす. 教員養成・採用の道筋をさぐる. 学文社, pp.89-96.

ファカルティ・ディベロップメント(FD)とは、教員が授業内容・方法を改善し向上させるための組織的な取組の総称です。本学は、FD活動を企画立案し実施するFD委員会を置き、教員の教育能力の開発・向上に努め、その質的充実を図る取り組みを進めています。本シリーズ「FD見聞録」では、そうしたFD活動を紹介していきたいと思っています。

国コム20年史

国際コミュニケーション学科 20周年記念誌(1999~2019年)が完成!

国際コミュニケーション学科が本学に設置され、一昨年20周年を迎えたのを機に、これまでの学科の歴史やあゆみ、そして卒業生等の近況報告を盛り込んだ記念誌の編集作業が進められています。総ページ数180頁からなる国際コミュニケーション学科の軌跡ともいえる記念誌はこの夏完成予定で、退職された先生や卒業生・在学生を代表して110名のみなさんの沖縄大学での思い出などがまとめられています。編集担当の伊藤丈志准教授は「卒業生・在学生が大学の思い出や現在の活躍の状況を紡いでくれたことで、人材育成について学科が一定の役割を果たせたことを改めて実感した。退職された先生方からのコメントや写真等も盛り込みとても充実した内容になっていると思う。」と、多くの人の協力を得て完成できたことへの感謝の気持ちを感慨深く語ってくれました。

完成した記念誌は、執筆いただいた関係者に配付されるほか、本学図書館等に寄贈される予定です。



研 究 の ひ ろ ば

人文学部福祉文化学科社会福祉専攻の山野良一と言います。いくつかの研究(他大学の先生との共同研究や個人研究、他機関からの依頼調査)に携わったり、書籍の発刊や雑誌論文への寄稿が現在進行中です。その中で、日本学術振興会・科学研究費による助成を受けながら行っている共同研究のひとつと、共著者の一人として取り組んでいる書籍のことを書かせていただきます。

科学研究費は、日本学術振興会がピアレビューの審査(研究者同士による審査)を経て、「独創的・先駆的な研究」に対して助成を行うものです。私は、本学島村先生と他大学の3人の先生とともに、日本学術振興会から助成をいただきながら2020年から2023年度まで「基礎自治体における子どもの貧困対策の現状と課題に関する総合的研究」に携わっています。

子どもの貧困は、沖縄県だけでなく全国的に問題とされており「子どもの貧困対策法」が2014年に成立しています。現在、この法律では、市町村が独自の行動計画を作成することを努力義務として課しています。私たちの研究は、先進的もしくは特徴的な実践をしている自治体を実際に訪問し、そ

のグッドプラクティス(実践例)を紹介することをひとつの目的にしています。

一方、児童虐待に関する書籍(仮題「子どものための児童相談所」)にも現在挑戦中です。ご存知の通り、ここ数年連続して虐待死事件が起き、社会的な注目を集めています。

私は、神奈川県の子童相談所で児童福祉司(公務員)として長年従事してきましたが、連続した事件では児童相談所が社会的な批判を受けることも多くなっています。しかし、児童相談所で働いていた経験からすれば、その仕事は手応えのある専門的なものでした。支援をするなかで、家族には少しずつ変化が見えていきますし、20年近く勤務することで子どもたちの長期の成長を感じることもできました。そうした専門性ややりがいはどうして損なわれてしまうのかについて、自分の意見をまとめているところです。今秋には発刊されます。ご期待ください。

人文学部福祉文化学科
社会福祉専攻
教授 山野良一



経法商学部 経法商学科 准教授
岩垣 真人

わがゼミナール

沖縄大学、その中でも経法商学部の特色は、ゼミナール活動に力を入れていることにあると言えるのではないのでしょうか。私たちは、一年生の問題発見演習から、基礎演習を経て専門演習まで、4年間ゼミナールを必修科目と位置づけ、小さな大学のメリットを活かしながら、濃密な学修が実現できるよう工夫を凝らしています。

私のゼミはその中でも、公法と呼ばれる、行政法や憲法を対象として、学修を進めていくゼミです。憲法や行政法は、とても重要な法分野なのですが(特に、沖縄に住む場合、連日報道される訴訟のニュースからも、多くの人にそれを感じて頂けるのではないかと思います)、しかし重要なものだからこそ、抽象的で、難解で、なかなか使いこなすのに苦労する、という難点も抱えています。

そこで、ゼミナールでは、そういった「とつきにくい」行政法・憲法に、もっと接近できるような工夫を凝らしています。行政学を担当されている島田尚徳先生のゼミと頻りに合同で演習を行うことで、実際の行政の問題を、法学(行政法)と政治学(行政学)の両面から考えられるようにしながら、できるかぎり具

 難解な『行政法・憲法』を身近に
感じられるように

体的な問題(ゴミ袋の有料化とゴミ処理問題、増える空き家の問題など)を検討することを心がけています。そして、その成果として、今年はゼミで実際に条例案を作成し、何らかの形で作成したものを議会に届け、できれば本当に自治体の条例として成立させてみたいと考えています。

また、ゼミナールの活動は、教室・大学の中だけで完結するものではありません。なかなか、最近ではコロナ禍の影響もあり、従来と同じように進めることはできていませんが、他大学のゼミナール(九州大学法学部の赤坂ゼミ・高橋ゼミや、獨協大学法学部の安原ゼミなど)と合同で演習を行うことや、那覇地方裁判所の傍聴、沖縄県議会の見学など、学びのフィールドを外に積極的に広げるための工夫を続けています。

これからも、充実したゼミナールを作るため、色々な仕組みを考えていきたいと思っています。



卒業生の活躍を紹介!

あの人はいま

当時の大学案内に入学してのコメントが掲載されていました!



エリナさん



卒業生の活躍を紹介する企画『あの一ひとはいま』。今回は現在エフエム沖縄の人気番組ゴールデンアワーのパーソナリティーとして活躍しているエリナさんを紹介します。

エリナさんが担当する番組ゴールデンアワーは平日の午後の生放送ワイド番組（月曜日～金曜日、14：00～15：50）で、第48回ギャラクシー賞・ラジオ部門優秀賞を受賞するなど、評価を得ている番組です。

平日の午後、県内のお店や職場、車内のラジオからはエリナさんの自然体で元気な声が心地よく響き、沖縄の昼にはかかせない存在となっています。

そんなエリナさんに大学時代のことそしてお仕事のことを伺いました。

（ギャラクシー賞：放送批評懇談会が日本の放送文化の質的な向上を願い、優秀番組・個人・団体を顕彰する賞）

Q 卒業してから、いまのお仕事に就くまでのエリナさんのこと教えてください。

沖縄大学を卒業してから2年間は役所で臨時職員として働き、その後専門学校で広報担当を務めました。専門学校のお仕事は学生募集のため、高校訪問の外回りが多く、そのころにラジオを聴くことが多くなったのがラジオのお仕事に興味を持つようになったきっかけです。仕事や将来に少し不安を感じていた時期があり、ラジオから聞こえてきたハッピーアイランドの多喜ひろみさんの優しい声と、リクエストで流れてきた松山千春さんの曲にとても感動して、とても心に響いたんです。不安や悩みで一杯一杯の気持ちが救われて。わたしも誰かに元気や勇気、助けになれたらな、と思いラジオのパーソナリティーになろうと決意しました。その後オーディションを受け、合格。最初は夜の番組を週に1回担当することができて、それから週3日担当、最後は平日帯で担当できるようになり、トータル6年間務めることができました。卒業という形で番組を離れ、1年後にゴールデンアワーのオーディションを受けて、合格し、現在3年目を迎えています。

Q お仕事の楽しさややりがいについて

とにかく楽しいです。素の自分でおしゃべりを楽しんでいる感じです。自分らしくいることを心がけ、元気をモットーにやっていて、それでお給料をいただけることに感謝しています。

私がラジオのお仕事を志したきっかけになった出来事と同じようなこともあり、流れた曲と私の何気ない会話に対して「元気が出ました」と感謝のお便りが届いたときには、とても嬉しかったです。「誰かの心の支えになりたい」と頑張ってきたので、なりたい自分になれているかもと思いました。

コロナ禍、心配ごとも多く心にゆとりがない人が多い状況で、よりラジオは求められているのではないかと感じています。リアルタイムに繋がること

ができる、ツイッター等と連動して、リスナーさんの悩みにも多くの方が共有できたり、リスナーさんと一緒に番組を作っていける醍醐味があります。ラジオには音声だけの世界、声色の魅力など不思議な力があるとも感じています。すごいコンテンツですし、他のコンテンツに負けないでほしいなとも思っています。

Q 大学時代について

夢や目標を4年間でみつけられたらと沖縄大学への進学を決めました。大学は自由で、すべてが自分で決めないといけない環境でしたが充実した4年間だったと思います。奥山正剛先生のゼミだったので、研究室にお邪魔して先生とはよくお話をさせていただきました。

私が通っていたときは、まだ本館ビルではなく、正門から入ったすぐ右手に生協があり、毎日通っていたのを思い出します。新しい建物が立ち、かなり変わったなと思いますが、3号館の101教室あたりは当時のままで懐かしい感じがします。

明るい性格なので大学時代もみんなで盛り上がることを率先してやったり、人を楽しませることを意識していたと思います。それが、いまのお仕事でも土台になっているかもしれません。

Q 沖縄大学に望むこと、後輩へメッセージ。

新しい学科が誕生した話題など、私が在学していたときより、明るい雰囲気や沖縄大学には感じています。

大学に望むことは、ひとりひとりの学生にきちんと寄り添える相談に乗ってくれるような大学であり続けてほしいなと思います。情報を得られないと4年間あつという間に時間だけが過ぎていきますから、いろいろな学生の挑戦できる可能性を広げてほしいです。

学生みなさんには、4年間、勉強も遊びもそし

て出会いもたくさん吸収してほしいと思います。大学の先生から貴重な情報たくさん入手してください。今は無料でたくさんの先生からお話聞けるチャンスですよ。社会人になり、もったいなかったな〜もっという知識を広げておけばよかったと後悔しています。

Q 今後の夢を教えてください。

ラジオの仕事をしたと思わせてくださった、憧れの人『多喜ひろみさん』みたいになりたいなと思います。

最初に担当した番組は学生層がリスナーで、今は社会人向け、少しずつステップアップしてきていますので、次は主婦層や子育て世代にも信頼されるパーソナリティーになれたらなと思っています。まだ結婚の予定はないのですが、自分の生活の変化とともに、お仕事でもスキルアップしていけたらいいですね。



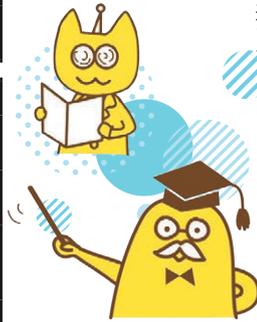
[エリナ(崎原絵利菜)さんプロフィール]

- 2005年：沖縄大学法経学部入学
- 2009年：卒業後、役所の臨時職員として働く
- 2011年：専門学校へ就職
- 2013年：エフエム沖縄、Radio dub水曜日担当（その後、平日帯で担当）
- 2019年：エフエム沖縄、ゴールデンアワーMC

2022年度 沖縄大学 入試日程

	願書受付期間 (消印有効)	入試日
総合型選抜 (プレゼン型:10月)	2021年 9月28日(火)~10月4日(月)	2021年 10月16日(土)~10月18日(月)
総合型選抜 (講義型:12月)	2021年 12月1日(水)~12月8日(水)	2021年 12月18日(土)~12月19日(日)
	願書受付期間 (消印有効)	入試日
学校推薦型選抜	2021年 11月1日(月)~11月5日(金)	2021年 11月20日(土)~11月21日(日)
一般選抜 (前期)	2022年 1月11日(火)~1月20日(木)	2022年 2月4日(金)~2月6日(日)
大学入学共通 テスト利用入試 (前期)		2022年 1月15日(土)~1月16日(日)
一般選抜 (中期)	2022年 2月7日(月)~2月16日(水)	2022年 2月26日(土)~2月27日(日)
大学入学共通 テスト利用入試 (中期)		2022年 1月15日(土)~1月16日(日)
一般選抜 (後期)	2022年 2月24日(木)~3月1日(火)	2022年 3月8日(火)
大学入学共通 テスト利用入試 (後期)		2022年 1月15日(土)~1月16日(日)

各入試とも願書受付開始日の1週間前(9時)よりWEB出願サイトで出願登録することが出来ます。



沖縄大学大学院・現代沖縄研究科には「地域経営専攻」と「沖縄・東アジア地域研究専攻」の2専攻があります。
 昼夜・土曜開講制で原則として平日の6、7校時と土曜日の3、6校時に開講されます。2年間の就業年限を超えて、計画的に教育課程を履修し修了することを希望する社会人等の志願者について、長期履修生(3年間)としての入学を認める長期履修制度もあります。

大学

大学院

お問い合わせ先 入試広報室(電話098-8332-3270)

2022年度 学生募集

2022年度 沖縄大学 大学院 入試日程

	願書受付期間 (必着)	入試日
AO入試 (社会人特別)	2021年 9月1日(水)~ 2022年 1月19日(水)	第一次面談日は志願者と調整※1
一般入試 (10月)	2021年 9月7日(火)~9月13日(月)	2021年 10月2日(土)
一般入試 (2月)	2022年 1月24日(月)~1月31日(月)	2022年 2月19日(土)

※1「出願可」の通知後、原則2週間以内に出願すること

2022年度 沖縄大学 募集定員

学科・専攻	入試種別	総合型選抜 (10月)		学校推薦型選抜		総合型選抜 (12月)		一般選抜 (前期)		一般選抜 (中期)		一般選抜 (後期)		合計
		総合型選抜 (10月)	専門・総合学科特別	一般	共通テスト利用	一般	共通テスト利用	一般	共通テスト利用	一般	共通テスト利用			
経法商		55	60	5	25	24	28	10	7	3	3	220		
国際コミュニケーション		20	20	2	10	10	7	5	2	2	2	80		
福祉文化 (社会福祉専攻)		30	18	2	5	5	4	4	3	2	2	75		
福祉文化 (健康スポーツ福祉専攻)		10	20			7	3	3	2			45		
こども文化			20			14	10	4	2			50		
管理栄養			28	2	5	23	10	10	2			80		
合計		115	166	11	45	83	62	36	18	7	7	550		



大学院

現代沖縄研究科

地域経営専攻 …… 5名

沖縄・東アジア

地域研究専攻 …… 5名

保護者懇談会の開催について

本学では、学生の学業や学生生活などについて、教職員と保護者との個別面談を実施し、きめ細かな学生支援を行って参りたいと考え、保護者懇談会を開催致します。

今年度は新型コロナウイルス感染症予防のために各会場と面談担当者とは遠隔で繋げての実施を予定しております。参加をご希望の方はご自宅に郵送した「沖縄大学保護者懇談会のご案内」をご確認頂き、参加申し込みを行って頂きますようよろしくお願い致します。

なお、新型コロナウイルス感染症の状況次第で中止または開催方法を変更する場合も考えられます。開催については沖縄大学HPをご確認下さいませよう何卒よろしくお願い致します。

- <久米島地区> 9月 2日(木) ホテル久米アイランド
- <宮古地区> 9月 8日(水) ホテルアトールエメラルド宮古島
- <八重山地区> 9月 9日(木) アートホテル石垣島
- <北部地区> 9月 14日(火) ホテルゆがふいん おきなわ

※上記会場、面談会 ▶ 18:00 ~ 19:00

お問い合わせ先

<中南部地区> 9月 18日(土) 沖縄大学
 ※面談会 ▶ 13:00 ~ 16:30

学生支援課
 098-832-7182

沖縄大学への寄附について

使途指定の寄附金は、寄附者のご意向にかんじた目的に使用させていただきます。個人、団体、法人を問わずご賛同を賜り、沖縄大学のさまざまな活動において大きな力となっています。ご支援をお考えいただける方は、ぜひ経営企画室までご連絡をお願いいたします。

【寄附の種類】

<1> 新型コロナ：緊急学生支援

新型コロナウイルスの影響により、家計状況の急変や、学生本人のアルバイト収入の激減等、経済的に困窮している学生を支援します。

<2> 奨学支援

<3> 施設整備支援

メール: keiei@okinawa-u.ac.jp

FAX: 098-832-0083

郵送先: 〒902-8521

沖縄県那覇市宇字園場555番地 沖縄大学経営企画室 宛